

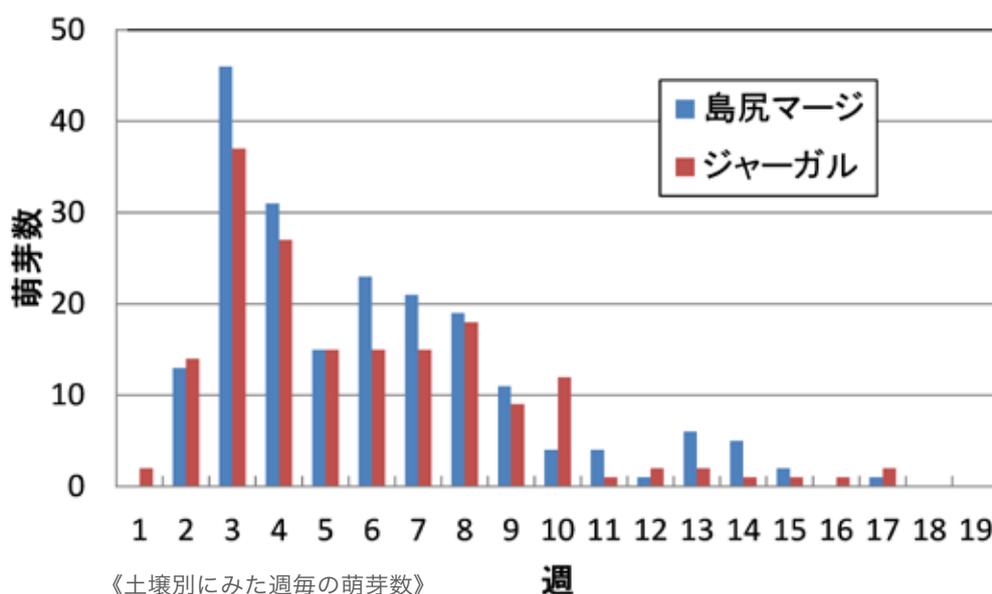
07

ヤブガラシ類の防除の考え方

(1) ヤブガラシ類の防除の必要性

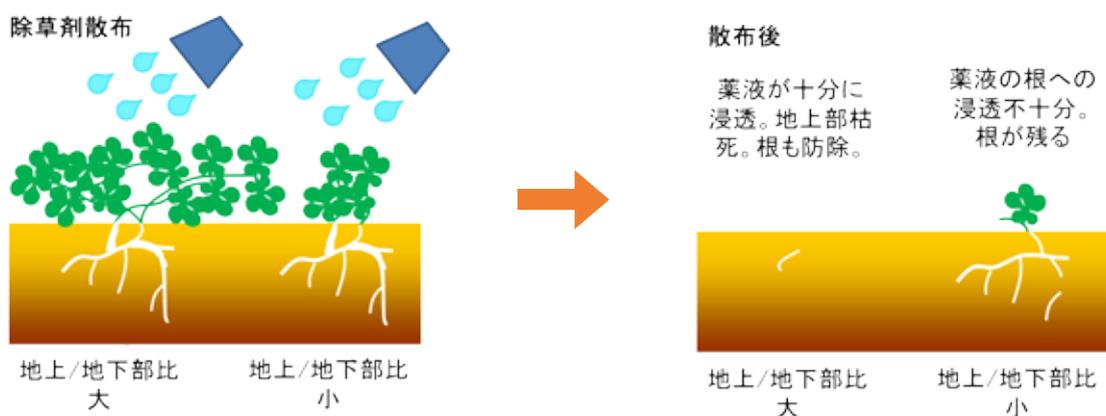
！ ヒイラギヤブガラシの萌芽は長期間続き、適期防除が必要である。

春季におけるヒイラギヤブガラシ根断片からの萌芽は、1週間後からはじまり、3週間後には萌芽数が最も多かった。50%萌芽するのに1ヶ月程かかり、70%の萌芽に2ヶ月程かかった。よって、ヤブガラシ類のグリホサートカリウム塩液剤による防除には長期間、複数回散布が必要である。



！ グリホサートカリウム塩液剤の散布でヒイラギヤブガラシを防除するには、地上部が大きいほど散布効果が高い。

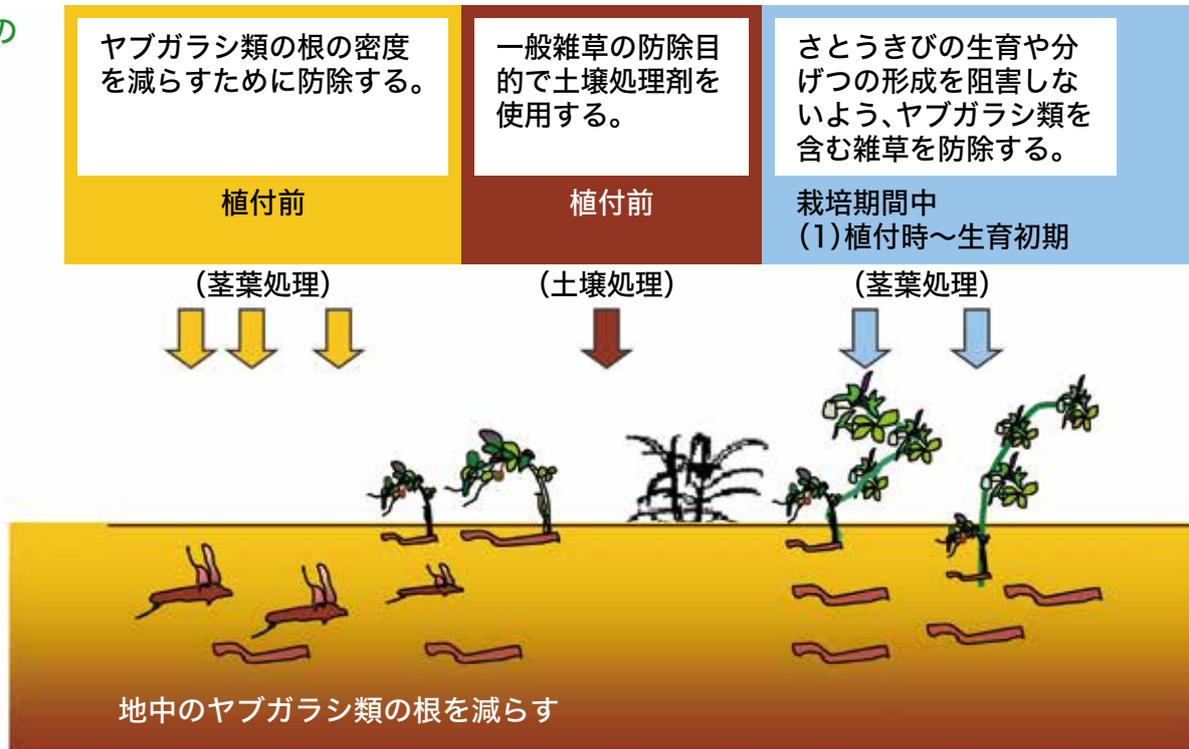
グリホサートカリウム塩液剤の散布に対し、ヒイラギヤブガラシは地上部サイズの大きな株ほど枯れやすく、逆に小さな株ほど地上部の枯死が遅く、再萌芽する傾向がある。地上部の小さな株は、根系に対する割合が小さく、散布した薬量では液剤の根への浸透が十分に行えない。



ヤブガラシ類の防除の考え方

(2) 防除のポイント

「ほ場内での
防除方法」



1) ほ場外

ほ場外に生息するヤブガラシ類は、土の移動や植木の移植に伴う茎葉や根による侵入、種子等により広がる。そこで、ヤブガラシ類の発生している場所から土の移動や植木の移植は絶対に行わない。

熟果実（種子を形成している）は、夏～秋に多く発生するので、熟果実ができる前に除草剤で防除する。

! ヤブガラシ類を外から入れない!



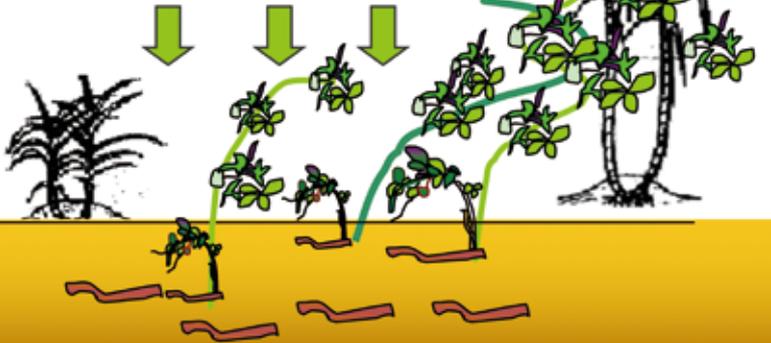
ほ場の近くに発生したヒイラギヤブガラシ

ヤブガラシ類がさとうきびに絡みつかないように、除草剤散布や手作業による引き抜きで防除する。

ヤブガラシ類はさとうきびをつたって成長する。

栽培期間中
(2) 生育中期～収穫前
(畦間のヤブガラシ類に茎葉処理)

収穫



根から萌芽してきたヤブガラシ類の茎葉(地上部)を防除する。

さとうきびの高さが1.5m以上になったら、防除効果の高いグリホサートカリウム塩液剤を散布する。
手作業での引き抜きもする。
はく葉作業時に防除する。



栽培期間中
(2) 生育中期～収穫前

2) ほ場内

つる性のヤブガラシ類は、さとうきびの茎や葉に絡みながら生長し続け、ほ場を覆うまでに生長する。そこで、ヤブガラシ類の防除は、以下の点に重点を置く。

① 植付前の根の防除

ヤブガラシ類の根は土壌の深さ1m以上にも分布するが、グリホサートカリウム塩液剤を複数回茎葉散布することで、茎葉から吸収され、有効成分が根まで浸透移行させて枯死させる。

② 栽培期間中の茎葉防除

ヤブガラシ類がさとうきびに絡みついて生育を阻害する前に防除する。新植や株出栽培の生育初期におけるヤブガラシ類の防除は、2,4-PA液剤を散布する。ただし、他の雑草も合わせた防除の必要がある場合は、他の選択性除草剤も併用して防除する。

! ヤブガラシ類をほ場内でまん延させない!